

はなみずき



隣組回覧

学校だより

鶴岡市立朝陽第四小学校

令和8年7月27日

「実り多い1学期でした」

いよいよ夏休みですね。1学期を振り返ると、とても実りの多い素敵な学期となりました。

「学校のリーダー」としてやる気と自覚をもって縦割り活動をけん引し、頼もしく成長している6年生。持ち前の明るさやパワーに、高学年としての落ち着きが加わり、前向きに大きく成長した5年生。天神祭りパレードで4年生が見せてくれた「暁薫らん」の集中力とやる気に満ちたエネルギー。学習する教科が増え、様々な挑戦をしながら賢くたくましく成長した3年生。授業に取り組む姿が落ち着き、進んで勉強できる子が増えてきた2年生。慣れない学校生活の中にも、自分たちのできることを一つひとつ学び、学校のルールもわかってきた1年生。日々の経験を通し、どの学年も成長し、実り多い1学期でした。

夏の思い出 ～夏休みを前に～



私が子どもの頃、家にエアコンなんてものは無く、ダラダラ汗を流しながら、首を振る扇風機に向かって「あ～、あ～」と言って声が震えるのを意味も無く楽しんでいました。家には車もなかったのも、どこへ連れて行ってもらってもなく、「何のイベントも無い夏休み」だったように思います。そんな中で、私は「昆虫採集（カブトムシ・クワガタムシ・昆虫ではないけどザリガニ）」に明け暮れました。家の仏壇の引き出しから「たこ糸」を持ち出して、近くの駄菓子屋で「酢イカ」を買って公園へ。20円もする「酢イカ」を、いきなりザリガニの餌にするのはもったいないから、味がなくなるまでなめたりかじったりして、さんざん自分で味わってから、ザリガニ釣りがスタートです。公園の「濠（ほり）」の淵にはいくばって、ザリガニの気配を根気よく探し、石の隙間からザリガニのはさみやヒゲ（触覚）を見つけようものなら、何時間でも「勝負」し、釣り上げた時の「やった～」という興奮は、今でも思い出します。

「カブトムシとノコギリクワガタ」をねらって、朝の5時前から「秘密の場所」に行く時の、前の夜からの高揚感もなかなかのものでした。いつもと違う、人気の少ない、ちょっと薄暗い早朝、若干の緊張を感じながら、「カブトしめ」がスタートします。見つけるまでが一苦労。手の届かないところにいと、網で届く所は網で、登れる木なら、降りられるかも考えずにひたすら登り、それも無理なら最後の手段の「ライダーキック」。木の幹を思いっきり蹴ると、カブトやクワガタが「ポトン」と落ちてきます。一瞬なので音が頼りです。でも、下は草むら。せっかくの獲物が行方不明になり、悔しい思いを何度も繰り返しながら捕まえた時の喜びは、経験した人にしかわからないでしょう。宝物を手にした気分になります。

体験には失敗もつきものです。加茂水族館の村上前館長さんが、「釣れない釣りを楽しむ達人」とテレビで言っていましたが、「やってみただけダメだった」というのも、それはそれで思い出深いものです。大きなイベントでなくていいのです。この夏「親子で楽しむちょっとした体験」をしてみませんか。「親子で30冊本を読む」「子どもが作ったものだけ食べる日」「親子で一緒に好きな曲を演奏する」なんていうのも面白そうですね。ちなみに私は、この夏休み、夫婦で「羽黒の石段5往復」にチャレンジします。

それぞれのご家庭で、夏休みが「忘れ得ぬ大切な時間」になりますように……。 （文責 校長）